

ほぼ月刊 桑名歴史こぼなし

Vol.12 2020年3月31日発行 森島司選手特集号

編集・発行：©社会福祉法人 桑名市社会福祉協議会 文化スポーツ振興課 TEL0594-22-8311



サッカー日本代表 森島司 選手
(サンフレッチェ広島提供)

＜サッカー家庭に生まれる＞

サッカー日本代表の**森島司**（1997～、以下敬称略）は、平成9年（1997～）4月25日に**鈴鹿市中江島町**で父**森島健**（1968～）、母**啓江**（ひろえ）の三男として生まれました。母は女の子が欲しかったそうですが、兄弟四人はすべて男の子でした。父は歯科技工士として大手歯科技工所に勤務後、平成7年（1995）10月1日に**デンタル・ラボ・ソーゴ**を開業し、平成9年（1997）3月に自宅を新築、その直後に司が誕生しました。愛知県津島市出身の母も歯科技工士で、木曾岬町の**服部歯科医院**（西対海地）勤務を経て、現在は**近鉄百貨店四日市店**（四日市市諏訪栄町）で子ども服を販売しています。

父は社会人サッカーの経験者で、三重県サッカーリーグの**鈴鹿FC**（フットボールクラブ）**鈴鹿クラブ**出身です。もともとは司と同じ**愛宕サッカー少年団**（鈴鹿市）でサッカーを始め、高校時代は強豪三重高等学校（松阪市久保町）サッカー部に所属、引退後の平成13年（2001）からは愛宕サッカー少年団のコーチ、平成21～30年（2009～2018）には監督を務めました。同じ敷地には祖父母も暮らし、祖母**由紀子**の実家は桑名市三栄町の**岡島眼科**（昭和44年（1969）8月17日開業）で、二代目の院長**岡島武彦**は兄にあたります。小学校六年生からは屋内犬（**ティノ**と**マロン**）を飼い始め、司は三世代と愛犬二匹が同居する明るく賑やかな家庭で育ちました。

他の兄弟三人も愛宕サッカー少年団の出身で、父をはじめとした指導陣から教えを受けました。長男**大**（1994～）は**四日市中央工業高等学校**（四日市市菅原町、通称四中工）サッカー部で**浅野拓磨**（1994～、セルビアの**パルチザン・ベオグラード**所属）とともに**第90回全国高等学校サッカー選手権大会**で準優勝し、現在は三重県サッカーリーグ一部の**TSV**（ティーエスファー、ドイツ語で総合型スポーツクラブの意味）**1973 四日市**に所属しています。次男**広**（こう、1995～）は**海星高等学校**（四日市市追分）サッカー部で、平成25年（2013）11月の第92回選手権三重県大会決勝戦では司との兄弟対決が実現し、技術面では司を上回ったとも言われます。四男**秀**（2000～）も中学時代は**ヴィアティン北勢FC**（和泉）に在籍



左側：平成9年（1997）9月10日、0歳4ヶ月、自宅
右側：平成10年（1998）、1歳、自宅
(森島健氏提供)

し、四中工で第 97 回選手権に出場し、現在は父と同じ鈴鹿 FC 鈴鹿クラブに所属しています。

＜幼稚園でサッカーを始める＞

平成 15 年（2003）4 月、**白子ひかり幼稚園**（鈴鹿市白子本町）の年長になると**愛宕小学校**（鈴鹿市東江島町）運動場で活動する愛宕サッカー少年団に入団しました。すでに兄二人も同団で活動しており、入団は自然の流れでした。しかし、実際には兄達の送迎時にサッカーボールで遊んでいたのも、もっと早くからサッカーには親しんでいました。

練習は月、火、金曜日の夕方に行い、夏季は水、金曜日の早朝練習が加わりました。少年団では様々なポジションを経験しましたが、幼いうちは「お団子」状態でした。しかし、経験を積むと FW（フォワード）や MF（ミッドフィルダー）といった攻撃的なポジションを重点的に担うようになっていきました。幼稚園でも**津田体育専門学校**（野田、令和 2 年（2020）3 月 31 日閉校）の津田スポーツクラブ講師によるサッカー指導が行われていました。初めて試合に出場したのは年長だった平成 16 年（2004）3 月 13 日で、少年団の創部 30 周年記念として**鈴鹿川高岡河川敷グラウンド**（鈴鹿市高岡町）で開催された**第 15 回愛宕招待少年サッカー大会**のことです。

＜小学校 5 年生で全国大会に初出場＞

平成 16 年（2004）4 月、愛宕小学校に入学すると 1 年生で鈴鹿市内の大会に出場して初めての公式戦を経験し、2 年生の平成 17 年（2005）8 月 27 日には**霞ヶ浦サッカー場**（四日市市羽津）で開催された**第 9 回コロナジュニアカップリーグ少年サッカー大会**、平成 18 年（2006）3 月 25 日から**鈴鹿医療科学大学**（鈴鹿市岸岡町）グラウンドで開催された**第 17 回愛宕招待少年サッカー大会**などに出場して経験を重ねていきました。

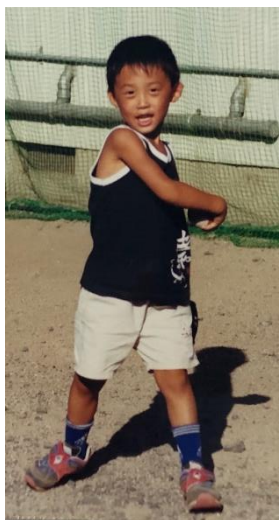
森島家では、毎年正月に全国高等学校サッカー選手権大会を観戦してから**東京ディズニーリゾート**（千葉県浦安市）へ行くことが恒例となっており、司が 3 年生の時に「**僕もあそこでやりたい**」と語ったので、母が何気なく「じゃあ四中工に行けばいいんだよ」と答えたところ、司の心には深く刻まれたようで、7 年後には四中工での出場が現実のものとなります。



上段：平成 12 年（2000）4 月 25 日、3 歳の誕生日、自宅

中段：平成 13 年（2001）、年少、自宅の庭で津田スポーツクラブのユニフォームを着て撮影

下段：同年 9 月 1 日、自宅でバランスボールに乗って撮影（森島健氏提供）



左側：平成 16 年（2004）3 月、第 15 回愛宕招待少年サッカー大会、鈴鹿市高岡河川敷グラウンド
左から二番目：自宅庭にて

右側二点：平成 18 年（2006）3 月、第 17 回愛宕招待少年サッカー大会、鈴鹿医療科学大学グラウンド
下段：平成 20 年（2008）12 月、スポーツオーソリティカップ 2008、埼玉スタジアム 2002
（森島健氏提供）



5 年生の平成 20 年（2008）12 月には初めての全国大会となる**埼玉スタジアム 2002**（さいたま市緑区）で開催された**スポーツオーソリティカップ 2008**に出場しました。結果は一回戦敗退でしたが、スタジアム内の見学ツアーに参加して日の丸とともに写真を撮影しました。

3 年生になると学習塾「**がんばる学園白子校**」（鈴鹿市中江島町、平成 28 年（2016）3 月 31 日閉校）に通い始め、サッカーと勉強の両立を図り、四中工入学が内定する**鼓ヶ浦中学校**（鈴鹿市寺家）3 年生の平成 24 年（2012）11 月まで通い続けました。小さい頃から何事も飲み込みが早く、キックボードやバランスボールを購入すると苦戦する兄達を横目にそつなく使いこなしたそうです。自宅の庭では兄弟や友達と**テニス**や**野球**をすることもありましたが、母によると「**結構な凝り性**」でいつの間にか道具をそろえて上達したといいます。屋内では**卓球**にも凝り、現在もサンフレッチェ広島（広島市西区）のメンバー達と一緒に興じています。身体能力は高く、小学校、中学校の間はすべて運動会のリレー代表に選ばれ、マラソン大会も連続して優勝していました。

また、父の影響から**将棋**や**オセロ**も大好きで、雨の日は父や兄弟と勝負に明け暮れたそうです。しかし、司には意外な不得意がありました。それは水泳です。少年団で海水浴へ行ったとき、こっそり母に「**浮き輪と水中メガネを用意して**」とお願いしたそうです。四中工では泳げないことを示す赤色の水泳キャップを着用していました。それでもプールは好きで、毎年夏休みには家族で**長島ジャンボ海水プール**（長島町浦安）に浮き輪を持って出かけました。

野球観戦も好きで、正月には**名古屋ドーム**（名古屋市北区）で**中日ドラゴンズ**の試合を観戦に行くと、**巨人（読売ジャイアンツ）**のキャップ帽を購入して帰ってきたといいます。現在の好きな球団について広島リビング新聞社（広島市中区）の取材で尋ねられると、巨人の名を挙げつつも、笑顔で「**（広島東洋）カープ（広島市南区）って書いといてください**」と答える大人の対応を見せています。余談ながら、愛称は家族からは**ツカ**と呼ばれ、四中工でも同じでしたが、幼稚園と小学校では**ツカピー**でした。ただ、現在はサンフレッチェ広島で**モリシ**と呼ばれています。

<名古屋グランパスエイトジュニアユースに選ばれる>

4年生だった平成20年(2008)1月に大きなケガをします。垂坂サッカー場(四日市市垂坂町)で行われたチャンピオンズカップで転倒した際に右手を踏まれ、手の甲を骨折したのです。医師からはしっかり固定し、走らないよう指示されたものの、司は「GK(ゴールキーパー)なら走らないから大丈夫」とギブスを付けたまま練習に参加しました。

6年生からは名古屋グランパスエイト(名古屋市中区)U-15の練習に誘われて参加するようになりました。スカウト担当者によると「4年生の東海大会から目を付けていた」そうです。セレクション(選抜試験)もクリアし、平成22年(2010)4月の鼓ヶ浦中学校入学と同時にグランパスに入団します。これにより三重県中学校体育連盟の公式戦には出場できなくなり、鼓ヶ浦中学校のサッカー部には所属しませんでした。練習は火、水、金曜日の18時から20時までトヨタスポーツセンター(愛知県豊田市)で行われ、母が伊勢湾岸自動車道を利用して送迎しました。小学校時代には肉や餅が好きで、野菜などの好き嫌いがありました。が、グランパスで栄養指導を受けて徐々に改善されました。ちなみに桑名の名物安永餅も好物で、津島市の母の実家に帰る際には永餅屋老舗(有楽町)で手土産をよく購入し、道すがら車内で食べたそうです。

平成23年(2011)1月2日、国立西が丘サッカー場(東京都北区)へ第89回全国高等学校サッカー選手権大会を観戦に行ったとき、二回戦で広島皆実高等学校と対戦する青森山田高等学校(青森市)の柴崎岳(1992~)のプレーに魅了され、これ以降はJリーガーとなる夢を明確に持つようになりました。同年春にはグランパスで進路相談があり、U-18へ進むことを勧められますが、昇格すると全国高等学校サッカー選手権大会に出場できなくなる説明を受けると、即座に「辞めます」と言ったそうです。グランパスの指導者からは引き続き昇格を勧められましたが、8月31日をもって退団し、同日にお別れ会を開いてもらいました。



上段：平成21年(2009)9月10日、小6、愛宕小学校運動会
中段：平成24年(2012)11月5日、中3、一番左、なばなの里(森島健氏提供)



©2020 VEERTIEN MIE

©2020 VEERTIEN MIE

©2020 VEERTIEN MIE

<桑名のヴィアティン北勢 FC に入団>

この間にいくつかのクラブチームの練習を見学し、平成 23 年（2011）9 月 1 日に桑名市を活動拠点とする「**三重北勢 FC**」（平成 20 年（2008）4 月設立、**櫻井稔真**代表）に入団しました。在籍中の平成 24 年（2012）4 月には同年 1 月に設立された**ヴィアティン FC**（桑名市和泉）のパートナーとなって「**ヴィアティン北勢 FC**」（現在のヴィアティン三重 U-15）となりました。練習は火、水、金曜日の 19 時から 20 時 30 分まで**朝日町民スポーツ施設多目的グラウンド**（三重郡朝日町柿）や**新日本工業**（桑名市和泉）内の**ヴィアティン専用グラウンド**で練習を行いました。入団初日、**山際崇**（1970～）コーチは「グランパスの人工芝に慣れた森島は最初、土のグラウンドでミスをしていましたが、すぐに慣れたのはさすがだった」と語ります。さらに「上手でも驕らない性格からすぐにチームにもなじんだ」そうです。練習会場には近鉄線を利用して桑名駅や伊勢朝日駅から自転車を使しましたが、最初は自宅から駅まで約 30km の道程を漕いでいきました。この自転車で桑名市内を走り回り、ラーメン屋などにも通ったそうです。しかし、残念なことに後になって自転車は盗まれてしまい、会場に近い JR 関西本線に変更して駅から徒歩で通いました。

ヴィアティンでは 14 番の背番号をもらいました。実はヴィアティンとはオランダ語で「14」を意味しており、10 番ではなく 14 番がエース番号だったのです。もともとはオランダのスポーツコミュニティを模範に設立され、14 番はオランダ代表**ヘンドリック・ヨハネス**（ヨハン）・**クライフ**（1947～2016）の背番号に由来します。以降、令和 2 年（2020）1 月 8 日にサンフレッチェ広島での背番号が 10 番に変更されるまで何度も 14 番を愛用しています。現在、ヴィアティンでは 14 番の着用を認めておらず、過去に使用したのは森島ただ一人であり、実質的な**永久欠番**となっています。しかし、一学年上の上級生が引退したとき、主将を受けませんでした。山際コーチによると、途中入団であったため周囲に配慮した結果だったといいます。「森島は実力があっても主将を引き受けなかった。そういう気遣いができるから好かれるんです」と語ります。

3 年生となった平成 24 年（2012）5 月の**アディダスカップ 2012 第 27 回日本クラブユース選手権（U-15）大会三重県大会**で 3 位となり、7 月 16 日には**桑員地区サッカーリーグ 2012**の最終戦で**明正中学校**（明正町）に勝利して**全勝優勝**を飾り、**mie（U-15）サッカーリーグ 2013 二部**への昇格を果たします。さらに 9 月 16 日の**高円宮杯第 24 回全日本ユースサッカー選手権三重県大会**で 3 位となって引退しました。平成 25 年（2013）3 月に卒団しましたが、その後の初蹴りや蹴り納めにも何度か参加しています。令和 2 年（2020）2 月には**ヴィアティン三重 U-15・三重北勢 FC OB 会**（山際崇事務局長）が発足し、今後は毎年 12 月 29 日に新日本工業ヴィアティン専用グラウンドで蹴り納めを行うそうです。

前頁下段左側三点：平成 24 年（2012）9 月、高円宮杯三重県大会
（左側二点ヴィアティン三重提供、左より三点目山際崇氏提供）

前頁下段右：ヴィアティン北勢 FC 時代（ヴィアティン三重提供）

上段：平成 30 年（2018）12 月 29 日、新日本工業ヴィアティン専用屋内練習場、子ども達との記念撮影に応じる森島選手
（山際崇氏提供） 下段：自宅玄関のギャラリー



＜四日市中央工業高校 1年で全国ベスト4＞

中学校時代には1年生で**中日本選抜**、2・3年生で**東海選抜**に選出され、2年生時には四中工サッカー部の**樋口士郎**（1959～）監督から勧誘を受けました。3年生の平成24年（2012）4月には**JFA（日本サッカー協会）エリートプログラムU-14トレーニングキャンプ**に招集され、初めて日本代表に選ばれました。夏休みには四中工サッカー部の合宿練習に参加し、平成25年（2013）4月に同校の**設備システム科**に入学してサッカー部に所属しました。入部するとセレッソ大阪（大阪市東住吉区）U-15に所属していた**小林颯**（はやて、1997～、FC.ISE-SHIMA（志摩市））とともに1年生ながらもレギュラーとなります。練習は火～金曜日の16～18時にトレーニング、土日にゲームを行いました。ただし、森島は白子駅（鈴鹿市白子駅前）を5時16分に出発する始発電車に乗って朝の練習前に走り込み、練習後にも後輩たちを誘ってしばらくパスなどの自主練習をしました。この頃は朝食、朝練後のおにぎり、昼食、夕食、夜食の一日五食を摂っており、四人兄弟が食べるご飯は一日十六合にもなったそうです。

12月30日開会の**第92回全国高等学校サッカー選手権大会**では31日に矢板中央高等学校（栃木県矢板市）、平成26年（2014）1月2日に帝京第三高等学校（山梨県北杜市）を下し、3日の桐光学園高等学校（神奈川県川崎市麻生区）戦では1得点をあげました。5日に履正社高等学校（大阪府豊中市）に勝利すると、11日の準決勝で富山第一高等学校（富山市）にPK（ペナルティキック）戦で惜しくも敗れたものの、初出場で堂々の**ベスト4**となりました。さらに優秀選手に選ばれたことから、2月に国立霞ヶ丘陸上競技場（東京都新宿区、同年5月31日閉場）で開催された**ネクストジェネレーションマッチに日本高校サッカー選抜**として出場し、Jリーグ選抜に勝利しました。3月21～23日には**第22回全国高等学校サッカー選抜大垣大会日本高校選抜**に出場し、4月13～23日にはドイツ遠征に参加して**第52回デュッセルドルフ国際ユースサッカー大会**に出場しました。

森島の特徴について、樋口監督は「守備が課題だったので徹底的に教え込みました」と語る一方で「攻撃はセンスのかたまりで教えることがない」と称賛し、「意外性のあるパスでのアシスト」が強みだったと語ります。さらに意思が強く、自分の考えがしっかりとあったといいます。チームメイトには気さくな性格で人気があり、後輩たちには「指示するよりは背中中で教えるタイプだった」そうです。四中工の部員とは今も仲良く交流しており、帰省した際には四中工はもちろん、ヴィアティン三重U-15や愛宕サッカー少年団の練習にも顔を出して指導しています。

四中工サッカー部 樋口士郎 前監督
令和2年（2020）2月5日撮影、和泉

＜サンフレッチェ広島に入団＞

2年生の11月、**第93回選手権三重県予選決勝戦**では宇治山田商業高等学校（伊勢市）に敗れて準優勝となり、同時に3年生が引退して部員の互選で**主将**となりました。樋口監督によれば、この敗北を契機に練習への取り組み姿勢が明らかに変わったといい、「**チームを勝たせることができる選手になりたい**」と語ったそうです。翌平成27年（2015）1月、驚くことに森島は第93回選手権の全国大会には出場しなかったものの、優秀選手に選ばれて**U-18日本代表**に招集され、1月3～11日にロシアで開催された**バレンティン・グラナトキン記念第27回国際ユースフットボールトーナメント**に参加し、5日のロシア戦にフル出場しました。



将来の進路については入部当初から「**Jリーガーになる**」と明言しており、平成26年(2014)3月には**セレッソ大阪**、2年生になると**ヴィッセル神戸**(神戸市兵庫区)の練習に参加しました。しかし、3年生の5月に**サンフレッチェ広島**の2泊3日の合宿練習に参加したところ、帰宅するなり「**サンフレッチェに入りたい**」と言い出し、以降は話が急展開し、6月2日には日本サッカー協会から**Jリーグ特別指定選手**の認定を受けてサンフレッチェ広島への入団が内定しました。

直後の6月24~28日には中国遠征に参加し、**パンダカップ2015**に出場しました。9月3日にはU-18日本代表として追加招集され、7~11日に行われた**2015長安フォードカップCFA国際ユース(U-18)フットボールトーナメント青島**に参加し、9日の中国戦に先発メンバーとして出場しました。9月28日~10月6日に開催された**AFC(アジアサッカー連盟)U-19選手権バーレーン2016予選**では10月4日のフィリピン戦にフル出場しています。四中工は12月31日に**第94回選手権**に出場しましたが、一回戦で明秀学園日立高等学校(茨城県日立市)に1対2で惜敗し、高校サッカーを終えました。

平成28年(2016)1月10日、両親とともに広島へ行って**サンフレッチェ広島二葉寮**(広島市東区)に転居し、翌日の入団記者会見では「**持ち味は、ゴールに直結するスルーパスや組み立てです。攻撃にアクセントをつけたいと思っています**」と抱負を語りました。3月1日には四中工卒業にあたり広島から卒業式に駆け付けました。17日にはU-19日本代表に追加招集され、22~28日に開催された**バーレーンU-19カップ2016**に参加し、22日のマリ戦と28日のメキシコ戦に出場しました。

<日本代表として活躍>

入団1年目の平成28年(2016)8月15日、左膝膝蓋骨離断性骨軟骨炎の手術を受けました。実は高校時代から膝に痛みを抱えていましたが、入団後に悪化して診察を受けたところ、思った以上に状態が悪く、医師からはサッカーができないかもしれないと言われました。森島は実家の母に泣きながら電話して「**もうだめかもしれない**」と訴えたそうです。しかし、手術は無事成功して全治5ヶ月ながらも完治し、平成29年(2017)2月25日の**アルビレックス新潟(新潟市中央区)**戦で公式戦初先発、初出場を飾り、シーズンで14試合に出場しました。

その後、4月17~18日のU-20日本代表候補トレーニングキャンプに参加し、5月20日から6月11日に開催された**FIFA(国際サッカー連盟)U-20ワールドカップ**メンバーに加わりませんが、ケガのため離脱しました。その後は平成30年(2018)1月9~17日開催の**AFC U-23選手権中国2018**、3月21~25日の**スポーツ・フォー・トゥモロープログラム南米・日本交流U-21サッカー交流**、5月26日~6月9日の**第46回トゥーロン国際大会2018(U-23)**に出場しましたが、8月5日のトレーニング中に左手を骨折して6日に手術を受け、全治2ヶ月と診断され、アジア大会は見送られました。

この間、5月22日には**AFCチャンピオンズリーグ2019**のメルボ

上段：平成30年(2018)

1月のU-23

中国遠征のユニフォーム

下段：令和元年(2019)

12月のE-1ユニフォーム
を持つ母啓江氏、自宅



ルン・ビクトリー（オーストラリア）戦でプロ初ゴールを決め、26日には浦和レッドダイヤモンズ（さいたま市緑区）戦でJリーグ公式戦での初得点をあげました。令和元年（2019）10月6～16日のU-22日本代表のブラジル遠征に選出された後の12月4日、日本サッカー協会は12月10～18日に韓国で開催されるEAFF（東アジアサッカー連盟）E-1サッカー選手権2019決勝大会に出場する日本代表チーム「SAMURAI BLUE（サムライ・ブルー）」（監督森保一（1968～））に森島を抜擢したことを発表し、10日の中国戦と18日の韓国戦にはフル出場して存在感を示しました。代表入りが決めた際、森島が母に「E-1選ばれたよ」とラインしたところ、仕事で忙しかった母はE-1を知らなかったことから日本代表入りしたと分からず、「お正月は帰れないのね」と返したそうです。ヴィアティン三重強化部長となった樋口前監督も「ついにやったな」とエールを送り、「頑張ります」と返信がありました。令和2年（2020）1月8～26日開催のAFC U-23選手権タイ2020にも参加し、12日のシリア戦に先発メンバーとして出場しました。

最後に本紙発行にあたり、森島選手ご本人から桑名の皆様へメッセージを頂戴しました。「いつも熱いご声援ありがとうございます。僕がプロとしてプレーできているのも、中学時代に所属したヴィアティン北勢FCを含めた三重での日々の取り組みがあったからです。今年でプロ5年目を迎えたサンフレッチェ広島では、日本一を目指して全力で取り組んでいきます。今後とも応援をよろしく願いいたします」とのことです。今後の活躍がますます期待されます。

※本紙画像の無断転載はご遠慮ください。

くわなれきしはなし

上段：サンフレッチェ広島の練習会場吉田サッカー公園（広島県安芸高田市）

下段：サンフレッチェ広島でプレーする森島選手（サンフレッチェ広島提供）

